令和3年度第7回南相馬市小高区地域協議会 会議録

- 1 日 時：令和3年11月19日（金）
午後2時00分～4時00分
2 場 所：浮舟文化会館 第1・2研修室

【出席委員名 12名】

会 長	林 勝典	委 員	小牛田 一男
副会長	阿部 貞康	委 員	飯塚 宏
委 員	橘 由美子	委 員	杉 重典
委 員	今村 秀身	委 員	末永 義人
委 員	小林 友子	委 員	半谷 恵美子
委 員	西山 喜代子		
委 員	田中 由里子		

【欠席委員 3名】

委 員	本田 博信	委 員	室原 真二
委 員	堀内 洋伯		

南相馬市職員

小高区役所長	山田 利廣
小高区地域振興課長	佐藤 浩一
小高区地域振興課おだかぐらし担当課長	志賀 和浩
小高区市民総合サービス課長	武田 智芳
小高区地域振興課自治振興担当係長	烏中 いずみ
小高区地域振興課副主査	大場 優
小高区地域振興課副主査	原田 翔（書記）
生活環境課長	上野 勝
生活環境課生活安全係長	牛来 裕文
生活環境課環境保全係主査	岡崎 智洋
イノベ政策課長	渡辺 裕
イノベ政策課イノベ推進係長	小畑 照明

1.開 会

事務局

只今より令和3年度第7回小高区地域協議会を開催いたします。本日の会議の成立要件につきまして、事務局より報告を申し上げます。

本日の欠席委員は、本田 博信委員、堀内 洋伯委員、室原 真二委員です。地域協議会委員15名中、12名の出席ということで、過半数を超えております。協議書10(2)により、本日の会議は成立しております。

初めに、林会長からご挨拶をお願いいたします。

2.会長あいさつ

小高区地域協議会 林会長よりあいさつ

3.議 事

事務局

議事の進行については、規定により、会長が会議の議長となります。林会長、よろしくをお願いいたします。

(1) 議事録署名人の指名

林会長

それでは、次第により議事を進めてまいります。

はじめに、会議録署名人の指名ですが、会議録署名人は、杉 重典 委員、本田 博信 委員の2名にお願いします。

(2) 報告事項

報告事項

第11次南相馬市交通安全計画(素案)に係るパブリックコメント手続きの実施について

林会長

それでは、報告事項の「第11次南相馬市交通安全計画(素案)に係るパブリックコメント手続きの実施について」を議題といたします。担当課より説明をお願いします。

生活環境課 資料1により説明

林会長

それでは、只今の説明について意見又は質問があれば、お願いいたします。

今村委員

計画期間が、令和3年度から令和7年度の5年間となっていますが、令和3年度はもう下期だと思いますが、これは上期に協議しなければいけない事項ではないでしょうか。

生活環境課生活安全係長

こちらにつきましては、国が令和3年3月末に公表をしまして、県が令和3年10月に公表となっているものですから、国・県の計画に基づき、市は本計画を出させていただいております。

阿部委員

先ほどの今村委員の質問に関連しますが、令和3年度の交通安全関係の事務計画というのは、以前の第10次交通安全計画には令和3年度はないわけで、今度作成するわけですね。

生活環境課生活安全係長

はい、そのとおりです。

阿部委員

毎年度、この事業に係る実施計画というものは作っていますか？

生活環境課生活安全係長

こちらについては、5か年計画で毎回行っております。

阿部委員

考えようによっては、令和4年度の事業を検証しながら、課題検討を令和3年度に重点的にやっていく、計画がないのだからそれしか方法がないですね。今行っている事業の中で、この計画素案との整合性はとれているわけですね。

生活環境課生活安全係長

はい。今行っている高齢者に対する運転免許証自主返納支援事業や、後付けの装置の助成金ではございますが、踏み間違いを防ぐ安全運転支援装置の助成金につきまして、そちらも引き続き行っていくということで記載をしております。

阿部委員

もう1点質問させてください。先ほど目標値の中で、交通事故件数を人身事故件数に変更するというお話でしたが、その前に交通事故件数を減らさないと、人身事故件数は減らないんじゃないかと思いますが、その辺はどうお考えでしょうか。

生活環境課生活安全係長

人身事故件数と交通事故件数につきましては、比例しているところもあり、資料1-1、2ページにもありますとおり、事故件数の掲載をしております。さらには、本市の最上位計画である南相馬市復興総合計画において年間の人身事故件数を成果指標として記載があるものですから、人身事故が分かりやすい目標値ということで今回変更いたしました。

阿部委員

そうすると、人身事故件数を目標値にするということは、人身事故を減らすためにはどういう風にやればいいのかという重点的な取り組み内容の記載があるのですか？

生活環境課生活安全係長

人身事故件数につきましては、こちらの交通安全計画の中にもございますが、警察署をはじめとする各関係機関や交通安全母の会や交通安全協会などの団体と連携して交通事故防止に推進していきましようということで、こちらの交通安全計画の方に記載しております。引き続きそちらを行いながら、市の独自事業も実施し、人身事故件数を減らしていきたいと考えております。

阿部委員

再度ですが、人身事故件数が減ったとしても、交通事故件数が増えているのであれば意味ないわけですから、まず、人身事故件数ではなくて、交通事故件数をいかにして減らせるかということが目標値なのかと思ったわけですが、計画の中でそういう風にやるとすれば、整合性をとるために重要な点です。

生活環境課生活安全係長

阿部委員のお話のとおり、どちらもあわせて減らしていくように私どもも努めてまいりたいと思います。

今村委員

資料1 - 1、3ページに、高齢者の交通事故等の状況の記載がありますが、これを見ると高齢者の事故が徐々に増加傾向かと思えます。こちらの対策に関する実施計画や目標値はどこに記載がありますか。

生活環境課生活安全係長

そちらの目標値につきましては、資料1 - 2、計画素案7ページの「対策の重点」に記載がございます。高齢者の交通事故防止については、夜間の歩行中の事故が多いことから、県の事業で総合的なものになりますが、明るい色の服装や反射材用品を着用して事故を減らしていくとしています。数値的なものは、委員からお話がありましたように、資料1 - 2、計画素案5ページにも同じような記載がございますので、そちらを指標にしながら、国・県にあわせて、市も努力してまいりたいと考えております。

今村委員

先日テレビでも放送していましたが、高齢者の事故で多いのがアクセルとブレーキかと思えますが、資料の中に記載がありますか。

生活環境課長

こちらの交通安全計画というのは、詳細な計画を載せるのではなく、5年間この計画に基づいて、今村委員がおっしゃるような具体的な観点で事業を展開していきますという中身なので、具体的な取り組みについては、年度ごとの状況にあわせて、色々行っていくということですので、ここで記載のある事柄は、全体的に高齢者の事故が多いため、この5年間は高齢者の事故を減らすために共通する部分の記載をしております。

今村委員

運転者に限らないということがここに書いてあるのですか。

生活環境課長

そちらも記載がございます。

生活環境課生活安全係長

先ほど今村委員よりご質問いただいた件につきましては、資料1 - 2、計画素案7ページ、下から5行目に記載がございます。

高齢運転者に対する交通安全教育等を行うとともに、自動車の安全運転支援装置の設置促進、これは自動車の踏み間違い防止の装置のことですが、そちらの助成金について、先ほど資料1 - 4でもお話をさせていただきました

とおり、市独自で交付の事業も行っておりますので、そちらを是非活用いただいて、市としては防いでいきたいと考えております。

西山委員

いくつかありますが、1つは、資料1 - 1、3ページに記載のある高齢者の交通事故等の状況の中で、人身事故件数というのは、高齢者が事故にあった数なのか高齢者が事故を起こした数なのかどちらなのか教えてください。

生活環境課生活安全係長

はい、こちらの人身事故件数につきましては、「うち高齢者の人身事故件数」という部分が高齢者が起こした事故ということでございます。

西山委員

高齢者が事故にあった件数というのは、こういうところには載ってこないのでしょうか。

生活環境課生活安全係長

同じ3ページの表に怪我された方の人数も記載がございます。「負傷者数のうち高齢者の負傷者数」に記載をさせていただいております。

林会長

要するに、高齢者が事故に遭った、被害者になったという件数ということをご質問されているのだと思います。

西山委員

そうです。特に小高区は高齢者が多いため、事故にあっている方が多いのではないかと思います。こちらは南相馬市の状況なので、小高区は今どういう状況なのかということを知りたいのと、免許返納はどれくらいの方がされているのか知りたいです。

また、国や県から助成金があるとのことで私も広報でちらっと見た記憶はあるのですが、広報はたくさんの方が書かれているため、中々読む方と読まない方がいると思います。そのため、高齢者の方向けにこのような補助金がありますので、是非活用して交通事故を起こさないように気をつけてください、という大きなパンフレットを作成していただき、是非行政区長さんに出していただいて、行政区の中で周知を図れば、利用する人も多くなると思いますし、事故も減るかと思えます。どうでしょうか。

生活環境課生活安全係長

まず、安全運転支援装置の助成金の広報についてですが、四半期ごとに交通安全運動というものが行われます。次回ですと、年末年始の県民総ぐるみ運動や春の交通安全運動などがあり、回覧ではありますが、こちらの方に交通安全の啓発と助成金についても、毎回ではないですが載せております。今回お話いただいたように、さらに助成金について推進してまいりたいと思いますので、今後広報啓発を図っていきたいと思います。

次に、各区の高齢者の負傷者数でございますが、こちらは全体の計画ですので、掲載はしておりません。今資料がないため、後日、生活環境課生活安全係にお問い合わせいただければお話をさせていただきます。

また、免許返納につきましては、令和2年度の情報ではございますが、市全体では287名、うち65歳以上の高齢者の方は279名の方が自主返納をされていらっしゃるようです。

小牛田委員

先ほどの質問に関連しますが、資料1-1、4ページの運転免許証を自主返納をした場合の支援事業の記載がありますが、具体的にどんな事業をやっているかをお伺いしたいです。なぜかという、私は吉名の行政区長もやっておりますが、お年寄り夫婦で住んでいる世帯が多く、夫婦どちらかが車を運転できなくなったら、娘や息子の所、つまり小高から出ていられないという考えを持っている方が結構いらっしゃるんです。そういう理由もあり、返納した場合は、何か交通に対して車がなくても大丈夫なシステムを作ってあげないと、小高から人口がどんどん減ってしまうのではと心配しているものですから伺った次第です。

生活環境課生活安全係長

運転免許証自主返納の支援事業につきましては、生活環境課で行っております。免許返納した場合、1回限りでございますが、タクシー利用券2万円分を交付しております。1枚500円のものが40枚綴りで、有効期間は3年間となっております。

あわせて、踏み間違い防止の安全運転支援装置の助成金につきましても、生活環境課の事業として、活動的な高齢者の方をサポートするため事業実施しております。

生活環境課長

加えまして、今ほどタクシー券のお話がございましたが、タクシー券を利用したいのだけでも、奥さんが運転免許を持っておらず、旦那さんが持って

いて、旦那さんの運転でスーパーに買い物をするために旦那さんが必要でした。けれども、旦那さんが免許を返納してしまったら、旦那さんがいくらタクシー券もらっても、本人しか券を利用できないため、奥さんが買い物に行くときに車を運転しない旦那さんと一緒にいく必要がありました。

そのため、使い勝手が悪いというお話がございまして、決定ではないですが、使い勝手がさらに良くなるよう、来年の4月以降は家族の方もタクシー券を一人で使えるよう検討中でございます。

小牛田委員

奥さんがいれば、券に連名で出せばいいんですかね。

生活環境課長

保険証などの住所が同じであることを確認できるものがあれば

小牛田委員

ただ、正直2万円を毎月出してくれるくらいでないと中々難しいと思います。2万円が額として妥当かはわかりませんが、少なくともそういう施策を考えていかないと。原町区や鹿島区のように親子で住んでいる世帯であればいいのですが、買い物や病院に子どもと一緒にいけますが、小高の場合はほとんど高齢者のみの世帯が多いんですよ。だから本気でそういう施策を考えていかないと、私は駄目だなと思います。人口がどんどん流失していくのを黙ってみてるしかない。行くなとは言えないですから。

生活環境課生活安全係長

この金額につきましては、令和2年度からとなっております。令和元年度まで1万円としていたものを2万円に増額させていただいた経過でございます。さらに相双地区の市町村の中でも、2万円分は最高額となっております。

小牛田委員

2万円で原町区まで何回往復できるのかなと思うんですよ

小林委員

これは3年間で2万円ですか。

生活環境課生活安全係長

そうです。

林会長

原町区までは往復3回程度だと思います。

小牛田委員

1年間に病院に毎月か2か月に1回ことを考えるととても難しいですね。12月に小高診療所ができるからそちらに行けと言われればそれまでですが、やはり他にも耳鼻科や眼科にも行かなければいけませんし、診療所ですべてが終われるわけではないんですからね。

林会長

小高診療所は、内科と外科だけですからね。

生活環境課長

委員の皆様がおっしゃられることもごもっともかと思いますが、1万円を増額させていただき、来年からは家族も使えるようにということで少しずつではありますが、今後もどういった使い道、使い勝手が良いのか方法を検討していきたいと考えておりますので、その際はまたよろしく願いいたします。

林会長

では、私の方から1点。大筋の計画については問題ないということですが、年度ごとにどういった計画を行うんだということもやはりある程度目安をつけておかなければいけないと思います。その年その年で毎年同じことをやっていると意味がないのですからね。特に地域の交通事情なんかかなり手間がいる事業だと思いますが、この道路が危ないなど把握する必要があると思います。以前と交通事情が変わってきていて、前は車がほとんど通らなくなった道路が、今は通勤などで信号を避けていこうとしてあちこち抜け道を走る人が結構いるんですよ。うちの行政区の前の道路も朝の出勤時には50キロ、60キロですっ飛んでくるんですよ。角口から出てくる人も意外と危ないんですよ。自分のことではありますが、右左を見たとして振り返ると、すぐ後ろに車がいる、あれ見えなかったかなと一瞬思う時もあります。だんだんとそういう方が増えていきますので、その辺を注意して計画を策定いただければかと思います。

小牛田委員

今日も上吉名の方に言われてきたんですが、朝小屋木の方から来る道路で50～60キロで走っていく車があるので、40キロの速度制限の標識を作ってくれないか言われましたが、おそらくそれをやっても速度を守らない人

はいますよね。うちの自宅前もそうですが、作業車でまだ遠くにいるな、ということで私が右折すると林会長がおっしゃるとおり、気が付いたら私の車の後ろにぴったりくっついていたりとか、そういう状況が多いです。

林会長

作業員さんの車もだいぶ浪江の方にうつったようですが、それでも朝の出勤時間には旧国道は同慶寺の信号からずっと片草の入口まで道路に出る隙間もなく、皆さん急いでるものだから譲ってくれないんですよね。そういったこともあり、色々な面で事情が変化してきていることも踏まえて、道路上での安全対策、人間に対しての安全対策を考えていく必要がありますね。

では、その他で委員の皆様から何かありますか。ないようですので、以上で、報告事項 を終わります。

報告事項

プラスチック製容器包装分別収集の開始について

林会長

それでは、次第にはございませんが、報告事項 として「プラスチック製容器包装分別収集の開始について」を議題といたします。担当課より説明をお願いします。

生活環境課

資料「プラスチック製容器包装分別収集の開始について」より説明

林会長

それでは、只今の説明について意見又は質問があれば、お願いいたします。小高区では大井行政区に自主的に行っていただきました。

今村委員

普通は別途分別するものは識別のプラマークが入っているものと思っ
てませんよね。

生活環境課環境保全係主査

はい、基本的にはプラマークがございます。けれども、資料の中にもござ
いますが、プラマークがついていないものもございます。電化製品の緩衝材
はプラマークが入っておりませんが、リサイクル可能なものです。他には、
果物の周りのついている緩衝材や PP バンド、エアクッション、こういったも
のはプラスチック製容器包装の対象となっております。

今村委員

これはビニールとは違うんですね。

生活環境課環境保全係主査

基本的には同じです。ポリエステルやポリエチレンです。

今村委員

黒い花苗の容器ありますよね。あれは分別対象ですか？

生活環境課環境保全係主査

物にもよりますが、プラマークがついているものもあります。プラマークがあれば、プラスチック製容器包装と認めていただければ問題ありません。

今村委員

なんだか難しいですね。

生活環境課環境保全係主査

今後、広報やチラシなどで分別について周知をしていきたいと考えております。令和4年1月から始まりますが、すぐに皆さんが全部分かるのは難しいと思っておりますし、説明会につきましても、1月からでもご要望があれば行っていきたいと考えております。

林会長

行政区長会でも、説明会は申し込んで行ってくださいというお話はしております。ちなみに、分別する袋はプラスチック製の袋ですか？

生活環境課環境保全係主査

はい、そうです。

林会長

これは一般で市販されているんですね。

生活環境課環境保全係主査

はい、されています。一番近いところだと、ダイユーエイトさんで取り扱いがされておりました。

林会長

袋は45リットル以下ですかね。

生活環境課環境保全係主査

45リットルの袋をいっぱいにするのは中々大変ですので、もしご家族がお二人などの場合は、30リットルの袋でも問題ございません。

今村委員

分別収集後リサイクルする再生工場はどこにありますか？

生活環境課環境保全係主査

南相馬市内にはございません。市のリサイクルプラザに一度すべて集めまして、どうしてもリサイクルできないものをはじいてから、国の容器包装リサイクル協会に入札をして、落札をした企業がすべて引き取っていきます。

その後、引き取った先の工場でプラスチック製のリサイクル製品として作り替えられます。身近なものと、花のプランターや工場のパレットになるケースが多いようです。

林会長

売却したお金はどこに入りますか。

生活環境課環境保全係主査

基本的には容器包装リサイクル協会に全部入るのですが、そこで利益が出て黒字になれば、参加している自治体に配分されます。そのため、毎年変わってしまうので、いくらになるというのは分かりません。

小牛田委員

先日テレビで放送していましたが、ペットボトルも液が残っているとリサイクルに回せないという話がありますね。何が入っているか分からない、危険な薬品が入っている可能性もありますから。ペットボトルを分別するときには中身をきれいにしてから捨てないとですね。

生活環境課環境保全係主査

飲み物のペットボトルは飲み切ってくださいか、軽く水ですすいでいただくのがいいですね。

林会長

意外と分からないのが野菜を入れる容器ですね。直売所やスーパーに売

られている野菜などについています。あれもほとんどプラスチックですので、端のどこかに必ずプラマークが入っていますね。プラスチックを分別すると、今までの燃えるごみの感覚でいきますと60～70%は減るかと思います。

小牛田委員

私も福島市に避難した際に、福島市はプラスチックが分別対象でしたから、分けておりました。最初は戸惑いましたが、3か月や半年みながらやっていると、マークを見なくても分かるようになりましたね。

林会長

小高は高齢者の方が多いですから、小さいプラマークが見えるか心配です。

阿部委員

資料の7ページ(4)に「レジ袋等にまとめないでください」と書いてありますよね。普通ご家庭で先ほどお話いただいたような大きなごみ袋は台所に置かないですよ、そうするとプラスチック類がたまってくるとどうしてもレジ袋あたりに入れてしまう場合もありますよね。

生活環境課環境保全係主査

そのため、レジ袋にまとめるということは絶対ではなく、お願いしたいと説明しています。

今村委員

プラスチックの分別については、事業者にも周知していますか。

生活環境課環境保全係主査

今年と来年は一般家庭で、その後事業者をお願いをするようになるかと思えます。

今村委員

事業者のごみの量はすごいですからね。

生活環境課環境保全係主査

プラスチックごみだけでなく、事業者のごみは多いのでそちらはやはり事業者にもご協力をお願いしていきたいと考えております。

今村委員

このことを実践すると、60～70%減るとのことですが、ごみ焼却の圧縮シミュレーションは行っていますか？圧縮シミュレーションを行った結果、これだけ圧縮できるから実践するんですよというようになっているのでしょうか。

生活環境課環境保全係主査

圧縮シミュレーションは行っておりません。

林会長

南相馬市全体として生ごみの排出量が日本全体の平均よりも多いということが1つありまして、まずごみの量を減らしたい。もう1つは焼却炉の経年劣化が酷くなってきてしまっているため、緩和するために、とにかくごみの量を減らさないと駄目だということでこの分別に至ったのではと思います。

生活環境課長

林会長からもご意見ありましたように、他の自治体では既に取り組んでいるところが多く、逆に南相馬市が遅いくらいだということもございます。

また、最終処分場ももういっぱいになってきていることもございまして、なんとかごみを減らしていかないといけないというのがそもそものスタートなのですが、それに付随して、別のところで積算はしていると思うのですが、その数値は今手元にはないもので申し訳ございません。けれど、費用が削減されるのは間違いないことだと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

林会長

では、その他で委員の皆様から何かありますか。ないようですので、以上で、報告事項 を終わります。

報告事項

小高区のイノベ推進によるまちづくり

林会長

それでは、報告事項 の「小高区のイノベ推進によるまちづくり」を議題といたします。担当課より説明をお願いします。

イノベ政策課 資料2により説明

林会長

それでは、只今の説明について意見又は質問があれば、お願いいたします。

阿部委員

小高区に産業団地という報道がございましたが、それは村上・福岡なのですか。あと、浦尻地区にある東北電力の原子力発電所跡地について、浪江とまたがっていますが、そのことなのかを教えてください。私どももそこが産業団地になるというのも初めて知りましたので、その辺の経過をお聴きしたいと思います。

イノベ政策課長

まず、産業団地の整備につきましては、先ほどご説明しましたとおり、移住定住される方、避難されているご高齢の方で子どもたちと一緒に住んでいる方など、そのような方が戻ってくるために、仕事をする場所が必要だということで、小高区に産業団地、工業団地、そういったものが必要であると考えております。原町区にも工業団地がありますが、現在残りが3区画しかございません。企業からは20社程引き合いがあり、到底足りない状況ですので、産業団地のない小高区に整備したいと考えております。

候補地につきましては、何か所か検討の経過はございますが、村上・福岡地区で、ほ場整備事業が計画されており、そこで非農用地設定が可能ではないかと考え、80ヘクタール程のほ場整備のうち3割の非農用地設定であれば、20ヘクタール程の産業団地を確保することが可能ということから、そこに産業団地を整備し、若い方たちあるいは避難されている方を呼び戻したいと、整備計画を立てたところでございます。

一方、東北電力の浪江との境の土地ですが、約8ヘクタールございます。そこも産業団地あるいは工業団地としての整備計画を立てておりますが、まだ東北電力の土地でございますので、それについては、東北電力と協議を行っているところでございます。従いまして、いつ市の土地になるか、また、購入するのか無償でいただけるのかも決まっておらず、いつできるかは想定できておりません。

村上・福岡地区につきましては、これから整備を行っていき、現在の想定では早く令和7年度に完成する見込みで進めております。

阿部委員

それは市として決定事項ですか。

イノベ政策課長

こちらにつきましては、方針について庁議決定をしております。庁議決

定をした上で、これからパブリックコメントや地域協議会の委員の皆さまにもご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

阿部委員

具体的な地区名が出てきたのは、今回初めてですかね。

林会長

そうですね。前から国際教育研究拠点を小高駅東側にしたいという構想はありましたが、太陽光パネルで埋まっていて駄目だとなりました。色々検討した結果、国道6号の東側でやむを得ないという話になりまして、地域の方々と話し合っていきましょうかという方向になりました。それについては観光協会の会長とも相談をしました。

また、国際教育研究拠点をもし設置できれば、それに付随して大学や関連した研究機関の往来がかなり激しくなるので、そうなってくると今の小高全体としての活力も上がってくるのではないかと、ということでのスタートだったわけです。やっと流れが出てきたなといった感じですね。また、万が一、国際教育研究拠点が来ないとなった場合でも、工業団地を整備しておけば、そこに付随して人が来るだろうということですね。

今村委員

工業団地については、新聞には村上とは載っておらず、福岡だけ載っていましたが。

イノベ政策課イノベ推進係長

ほ場整備が「村上・福岡地区」として計画されておりますので、その中で用地を確保するということです。

阿部委員

国道6号と太陽光パネルが設置している間についてはどうなのでしょう。いわゆるダイユースイトの南側ですね。

イノベ政策課長

現在、太陽光が設置されている箇所の東側と国道6号までの間につきましては、同じ事業者が地権者の皆さまと接触しておられます。市としてはそこを購入したいと考えております。ただ、事業者が既に地権者の皆さまと接触をしておりますので、事業者と協議を行っているところです。事業者については、例えば市でどこかに代替地を準備出来れば、対応できるかもしれないという状況にはなっておりますが、まだ協議は整ってございません。

阿部委員

地権者と業者で覚書は交わしているのですか。

イノベ政策課長

ケースバイケースだと思います。

今村委員

あそこは地質調査しないと駄目ですよ。我々も別の施設の候補地だったのですが、調査を行った時に、杭が3本入ったから駄目ということで、撤退しましたからね。

イノベ政策課長

岡田地区の皆さまと協議をしているときにも、相当軟弱な地盤だとお話を伺っております。今、杭のお話もありましたが、津波のハザードにもかかっておりますので、杭を打った上で、土盛りについても想定しております。

イノベ政策課イノベ推進係長

地質調査のデータも入手しており、かなり地盤が悪いという認識はしております。

今村委員

浦尻は8ヘクタールしかないのですか。

イノベ政策課長

東北電力の原子力発電所計画地につきましては、ほとんどが浪江町でございます。南相馬市は、8ヘクタールとなっております。

今村委員

浪江には無償譲渡して、小高の8ヘクタールを残ったままにしておくというのはおかしいのではないですか。

イノベ政策課長

浪江町の方はご存じのとおり、水素エネルギー研究フィールドをはじめとした産業団地を整備しています。南相馬市は土地の譲渡を受けて産業団地を整備するとなると、環境アセスにかかってしまい、事業が延びてしまうおそれがあったため、ちょっと待ってほしいということになり、時期をずらしたという経過も当時ございました。土地については、無償か有償

かはまだ分かりませんが、議ってただける方向で協議を進めております。

今村委員

あそこは高いから津波被害は受けていないですよ。

イノベ政策課長

受けておりません。

今村委員

あともう1点、国際教育研究拠点は南相馬市も国に誘致を要請しているかと思いますが、他の地域も要請をしてますよね。これは本当に実現するのか分からないんですよ。

イノベ政策課長

今全力をあげて、実現する方向で進めております。

令和2年6月に、国の有識者会議から答申が出まして、設置場所については避難指示が出されていたところで、南は広野町から北は小高区までとなっております。避難指示が出ていたのは、12市町村ありますが、このうち川俣町と田村市は浜通りではないので対象外になるため、10市町村となります。積極的に表明しているのが楡葉町、富岡町、浪江町、南相馬市の4市町となります。場所の決定につきましては、県が手を挙げている市町村に対してヒアリングを行って、国に対して提案をするということになっておりますが、県からいつヒアリングを行うか示されておられません。本来ですと、去年の秋にそのヒアリングが行われる予定だったのですが、まだ来ていないため1年以上遅れている状況です。

林会長

今回県とヒアリングを行う段階で市として土地は準備できていますという勢いで行っていかないと誘致はできないと思います。

今村委員

資料10ページに移住定住についての記載があるかと思いますが、若い方や起業家の方々を呼び込んで、地域活性のために必要なものの1つとして工業団地をつくる、それはいいのですが、転入されてきた方々へのメリットとなる政策ってなんですか。

イノベ政策課長

今のところ課題ではありますが、現在ですと、家賃補助や家を改修する

費用の助成といったものを中心に行っております。

小林委員

小高区は早く始まったじゃないですか。そういった方達は何人もいますけども、これはそういう方たちに対しての補助ではないんですよ。この補助は今年からなんですよ。双葉郡と併せて行っている事業かと思いません。今頑張ってきている人たちに対しての助成金ではないんですよ。今、事業を展開して一生懸命やっている若い方たちにどうやったら持続して小高に住んでもらうかという助成金をなぜ出せないのかなとずっと思っています。それに付随して若い方たちもきているのだから、大事なと思うんですけども。

飯塚委員

来た時に半年間勤めたら助成金をもらえますとかありましたよね、例えば5年間住みましたとなったときに、継続でいる人に対して助成金を支給しますとかそういった思い切ったことをした方がいいんじゃないですかね。

小林委員

うちも解除前の3年前にここで事業を始めた方、新しく来た方に300万円、2年前に200万円、1年前に100万円といていたのですが、1年前は消えてしまったんですよ。そういうのはそんなに縛りのなく自由に雇った人にお金をあげたりすることができるんですよ。そういうものの助成金といいますか、市独自のがあったら小高の場合は来てくれる方がいるのでは、とすごく思います。それが県内であろうと県外であろうとここに住んでくれる人を対象とする、そういうことを是非市は考えていただけたらと思います。

イノベ政策課長

ご意見ありがとうございます。今ここでお答えができませんが、それにつきましては、持ち帰りまして、関係課につなぎたいと考えております。

半谷委員

先ほど家賃補助があるとおっしゃっていましたが、普通の民間の賃貸についても補助があるのですか。そこがあまり知られていないところだと思います。一番住む場所を探すことに苦労している方が多いです。市営住宅なども単身者の方に開放していただきましたが、1年間しか住めないなど民間の賃貸を探したりするのですが、そもそも家賃が昔より上がってしま

っているので、収入に対して中々厳しいという方が多いです。特に若い20代の方たちは住むところに苦労されています。普通の民間の賃貸に対しても家賃補助があるのであれば、すごくありがたいな思いましたので、質問させていただきました。

イノベ政策課長

資料が今手元にないため、ここで詳しいお話ができませんが、ご質問につきましては資料を整えまして、また改めてご連絡いたします。

林会長

いずれにしても、移住されている方にはある一定期間、つまり1、2年でなくて、5年、10年という期間でのどうやったらそれが定住できるのかという考え方を示して呼び込まないと。1年過ぎて支援が終わっては中々定着できないんですよ。事業展開するにも、その実績が出せるようになって、自分で生活できるようにならないとどうにもならないので、途中でそれが成り立たなくなるのが一番もったいないと思います。特に今新規農業者の方がいますけども、農業法人に携わって、技術を学ぼうとしても、2、3年でもものになるわけじゃないですよ。農業を覚えるのに最低でも5年くらいはかかります。技術を学んで、自分で独立してくるとなると農地がないわけじゃないから、すべてを自分でやるためには農地を借りるなどしなければならない、そうするとその時点で自己資金がなければ始めることができない。農業法人に勤めるだけの農業では生活していくにはちょっと厳しいかなと思いますし、その辺の考え方ですね。

先日、大学生が私の家に来た時に、新規農業をやるには色々考え方があって、専門的にやるならばそれなりの覚悟をもってやらないと駄目だよと、ただ、勤めて農業のイロハだけを覚えるというならば、どこでもかまわないけども、そういうことを考えいくと、移住するのはハードルも高い。けども、やりたいならば是非ともやってくださいと応援できることはみんなに頼っていいからと伝えました。

トマト栽培の技術を学ぶのにも、最低3年はかかりますからね。それくらい年間の生活費は保証します、3年とか5年とか保証しますからどうぞというくらいのお話を出せないとか中々今の若い方々は入ってこれないと思うんですよ。

小牛田委員

奨学金のような感覚で、例えば毎月5万円や10万円などを補助して、5年間勉強して、やがて農業をやればそれはもう返さなくてもいいですよ、というようなシステムにしないと、やはり簡単に小高に来て1から土

地を買って農業をやります、というのは若い人には中々できないですし、人材も育たないと思いますよ。

半谷委員

先日、農政課から話を伺いまして、今地域おこし協力隊で農業で人を呼べないかということを検討して進めているんですが、意外と土地がありそうで、農地として手に入れられそうな土地がないという話を聞いて驚きました。このあたりだと農業ができますよ、というように見えようになればすごく有難いと思いました。

林会長

資料の5ページにある地図で、太陽光の分布などの記載がありました。農地を維持するために草刈りを行っています、その条件の1つが、農業の再開です。まとめなければいけない面積の決まりが、最低でも1ヘクタールなんです。ところが、農地の良い所をやろうとするとその真ん中に太陽光が入っているんですよ。すると、そこをまとめられなくて駄目だという話になるわけです。

今も農地は農業委員会の許可をもらわなければ個人的に買えないわけですが、1ヘクタールや2ヘクタールの農地を求めても、何か特殊なことをやらない限り、農業ができるわけでないということです。

また、昔から小さい農家があったわけですが、今はそれが全くないので今一番心配しているのが、小高区は高齢化が進んでおり、年金暮らしの方が増えてくるわけです。年金暮らしをされている方はだいたい国民年金なので、せいぜい月6万ですよ。この前、新聞に被災地の医療費免除を縮小するという話も出ていました。そうなってくると到底年金だけの生活は成り立たなくなりますよね。先にその後の支援体制を決めてから免除を縮小するとかしないと絶対駄目だと思うんですよ。

今村委員

会長、すみません。太陽光パネルについて、もう一部立っているかもしれませんが、乱立するのはこれからなんですよね。今心配しているのが景観や農業地の目的外使用ですとか、業者が契約当時はいいですが、5年、10年先に権利を譲渡するのではないとか、誰に譲渡されるかわからないですから不安なことなんですよね。そういうことを踏まえて条例化して、できれば許可するのは県なわけですから、役所では許可しないように要請をかけているとききました。ただ、現場では既に郡山やいわきの業者がきて、同意書を締結して進めているわけですよ。役所として、地権者も含めた形で集落ごとにきちっと説明しないと問題になりますよ。

確かに、太陽光パネルには反対論もありますが、賛成論もあります。田んぼは基盤整備があるからいいんです、ただ田んぼでも従来から検査をして、そこに水路がないとか、田んぼとして適用しないとか、あるいは山間地の畑とかについて、パネルを今設置しようとしている方々もいます。ただ、一等地については、私は絶対駄目だと業者に対して言っています。そういうところをすべて乱立というわけではなくて、この草刈り事業も令和7年度で終わるわけですから、その後誰も帰ってこない集落が草だらけになって獣の巣になってしまうわけです。だからあわせて、太陽光パネルの設置はやめてくださいというのであれば、別途対策を示さないと今後問題なると思います。

林会長

それで話が出たのは、一等地から外れている場所で、うちの行政区にはこういう場所があるので、ここに太陽光パネルはどうですかというように、逆に推奨してもいいのではないかと思います。場所を選んであげて、農業は農業で維持できるようにしていかないと駄目という話です。農林整備課ともお話したのが、簡単にいうと各行政区でここだったらいいよという場所を示してもらえれば、そこを推しますというところまでは話をしています。

今村委員

けれど、地権者の方は分かっていないですからね。業者は申請したけども許可が出るとか、出ないとこれからいっぱい出てきますよ。なぜ許可が出ないんだとなると問題が発生してしまうので、ちゃんと農地の在り方など市としての考え方を示していかないとですよ。あと、令和7年度以降の農地についての対策も考えていかないといけないです。

林会長

太陽光というのは色々問題がありまして、今の営農型というのもどんなシェアがあるのって話です。高いパネルを作っても、そこに支柱があるので大型の機械が入って耕せるわけではないですし、ではそこに何を植えるかということ、サカキなどの多年草を植えるわけですが、それって本当に管理できるのかということです。ただ、農地だから、そうしないと許可が出ないんですよ。

小牛田委員

部落を見ていると、結局後継者がいないから、田んぼや畑を持っていてもしょうがないということで、みんな土地を手放して身軽になりたいとい

う方が多いですよ。なぜかと言いますと、最終的に小高から出ていきたい、年をとってきたので子どものところにいきたいからです。その時に小高に土地を残しておいたのでは子どもに迷惑がかかるからです。

林会長

太陽光を設置する業者さんに対して、故障などのトラブルがなければ、20年売電できる期間があるわけですね、それが終わった段階で撤去しなければならないわけです。撤去は埋め立てをして、撤去費用を積み立てして途中で逃げることは許さないよとなっています。

今村委員

原発でないもので電気を起こすんだとなったときに、南相馬市はここまでは太陽光、風力、水力でそれぞれ電気を起こしてまちづくりをしようというような指標を示していかないといけませんよね。

西山委員

私はあまり農業のことは詳しくないのですが、テレビを見ていて思ったことがあります。確か田村郡だったかと思いますが、農業をほとんど分からない方を呼んで来て、地元の農業者の方が指導をして、農業者の方が土地を貸す。結局指導するだけでなく、その後もちゃんと面倒をみて生活ができるようなシステムを持っているんですね。それで定住まで結びついていました。そういうところも南相馬市でも情報を得ていただければかと思えます。南相馬市で農業をやってみたいと思う方が増えれば素晴らしいことだと思います。2025年頃には、日本で食べるものがなくなるという時代が来ると言われていますので、今農業を大事にしていかないと大変なことになります。私は女場に住んでいますが、女場も組合を作って補助金をもらうために何かしようと一生懸命やっていますが、そういった努力は大切だと思います。是非、市の方にもお願いをしつつ、地域協議会でも協力をしつつ、地元の農業団体の方にもご協力をしていただき、農業や一番大事な食べるということを大事にしていっていければと思っております。

林会長

議論は尽きませんが、この後、小高診療所の内覧もございまして、以上で、報告事項 を終わりたいと思います。

4.その他

林会長

次に4.「その他」に移ります。

今回、南相馬市企画課より、南相馬市公共事業評価委員会委員の推薦依頼がございました。こちらは現在、小高区地域協議会から飯塚 宏委員が務めていただいておりますが、令和3年12月16日をもちまして、任期が終了することから、次の任期は、小牛田 一男委員を推薦したいと考えていますが、いかがでしょうか？

異議はないとのことですので、次期、南相馬市公共事業評価委員会委員は、小高区地域協議会から、小牛田 一男委員を推薦いたします。

最後に、次回会議開催についてですが、次回の会議日程は1月下旬を予定しております。正式に決まりましたら、後日事務局より連絡をお願いします。

林会長

他に何かございますか。なければ進行を事務局にお返しいたします。

5.閉 会

事務局

以上をもちまして、令和3年度第7回南相馬市小高区地域協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

この後、委員の皆様には大変お忙しい中恐縮ではございますが、12月開所予定の小高診療所を内覧していただきたく存じます。担当よりご案内いたします。

令和3年度第7回小高区地域協議会会議録

会議録署名人 杉 重典

会議録署名人 末永 善人